



福島産桃 JA 共選場作業支援
(2016年7月16日～8月6日)

活動報告集



もくじ

	名 前	なまえ	部 署 名	活動日	頁
1	内山 和夫	うちやま かずお	産直グループ	7/16-17	1
2	佐田 真朗	さた まさお	コープECRセンター		3
3	長谷川 幸	はせがわ ゆき	営業本部 東北支所		4
4	坂本 容子	さかもと ようこ	中央第2支所		6
5	文珠 正也	もんじゅ まさや	コープ共済連		7
6	土井 一朗	どい いちろう	CXカーゴ	7/23-24	9
7	松田 知恵	まつだ ちえ	生協総研		10
8	宮崎 朋子	みやざき ともこ	CXカーゴ		12
9	小川 康子	おがわ やすこ	コープ共済連		13
10	西垣 裕智	にしがき ひろとも	商品共同仕入企画室		14
11	屋代 香保里	やしろ かほり	品質保証部		15
12	堀 茂	ほり しげる	開発管理部		16
13	小林 香	こばやし かおり	コープ共済連		17
14	伊藤 治郎	いとう じろう	渉外広報本部		18
15	丹 敬二	たん けいじ	内部監査室	7/30-31	19
16	上垣 正美	うえがき まさみ	共同開発推進部		20
17	足立 玄	あだち げん	日配商品部		22
18	中瀬 大生	なかせ ひろお	農畜産部		23
19	藤野 健司	ふじの けんじ	水産部		24
20	内田 実智子	うちだ みちこ	マーケティング部		25
21	齊藤 雅也	さいとう まさや	CTJ		27
22	富岡 美和子	とみおか みわこ	渉外広報本部 広報部		28
23	神野 郁子	じんの いくこ	マーケティング部		29
24	渡部 恭一	わたなべ きょういち	福祉事業推進部		30
25	安藤 津矢子	あんどう つやこ	業務管理部	8/6-7	32
26	荒木 秀一郎	あらき しゅういちろう	コープECRセンター		33
27	佐野 公彦	さの きみひこ	需給管理部		34
28	金子 則子	かねこ のりこ	物流管理部		36
29	青木 覚	あおき さとる	コープ共済連		37

笑顔とどけ隊・2016年ふくしま桃選果場ボランティア報告書

2016年8月15日

日本生協連笑顔とどけ隊
事務局長 内山 和夫

1. はじめに

5月下旬に、JA全農福島県本部からコープふくしまの根本執行役員を通じて笑顔とどけ隊（内山）に、「桃選果場のボランティアの可能性はあるかどうか」について打診がありました。この件について即座に笑顔とどけ隊の役員に対しメールで諮り、その結果、お引き受けすることを決めました。同時に企画書を作成し、日本生協連（共済連・CXカーゴ含む）の役職員に対しボランティア募集の案内を出したのが5月30日のことでした。

2014年の夏（8/2～31）にも同様のボランティアの依頼がJA全農福島県本部からあり、笑顔とどけ隊として35名が参加した実績があります。今年は一昨年に続いて2回目の桃選果場ボランティアになります。

実は、2015年度の活動計画を立てるにあたり、2015年の春先にこちらからコープふくしま根本執行役員を通じてJAサイドに打診したところ、「今年はその必要は無いし要請もしない」というご返事をいただいたため2015年は取り組みませんでした。そのような経緯があり、このボランティア活動は当初の2016年度計画には入れてありませんでした。

最盛期の桃選果場にとって人手不足は深刻な問題です。笑顔とどけ隊のボランティアもお役に立っていると思いますが、おそらく、JAふくしま未来（菅野組合長）がこのボランティアに期待するものは他にもありと私は感じています。

それは、2011年3月に起きた東京電力・原発事故による様々な福島県産農産物への風評被害に対して全国の生協（日本生協連を含む）が連帯して福島県産農産物の取り扱いを進めてきたことへの感謝の意と共に、この連帯感をJAふくしま未来としても共有したいということではないかということです。また、この活動に参加してもらい日本生協連グループの役職員に福島産桃のファンになってもらうことに本当の狙いがあるのではないかと思います。

超多忙な時期に笑顔とどけ隊のボランティアを受け入れ対応するのは、センター長をはじめ現場の担当者の皆さんは大変だと思います。1泊2食付の宿代のコストをJA側で負担されることを考えると人手不足を解消する方法は他にあるはずです。だから、2015年の春にボランティアが必要かどうかを尋ねたときには、JA管理職からは「必用ありません」という返事が返ってきたのだと推測しています。これは私の憶測ですが、2016年度のふくしま応援隊ギフトを展開するにあたり、菅野組合長からJA内部の管理職にこのボランティアを依頼する本当の意義が伝わり（共有化され）ここに至ったのだらうと思います。

（7月23日に、菅野組合長が参加者への差し入れを持ってわざわざ選果場までご挨拶に来てくださり参加者全員が感激したという報告を受けました。ありがとうございました！）

この企画に参加者された笑顔とどけ隊・役職員は、早く作業に慣れてお役に立ちたいという気持で一生懸命に作業に当たったことが、この報告書集に良く表現されています。そして、一様に福島産の桃のおいしさを謳い、これからも応援して行く旨の意思表示がされています。これこそが、最も大きなボランティアの成果であると確信しています。

JAふくしま未来及びJA福島県本部の関係者の皆さま、大変お世話になりました！
参加された笑顔とどけ隊の皆さま、暑いなか大変お疲れ様でした！！

2. 活動概要 (7/16～17)

(1) 交通手段と時間

①集合場所&時間：JR東北本線 「伊達駅」改札出口に9:10集合。

②往路・交通機関

●東北新幹線「やまびこ123号」 東京7:12⇒大宮7:38⇒福島8:48着

●東北本線「ラビット1号」 福島8:56⇒伊達9:05着

③復路・交通機関

●東北本線 伊達16:14⇒東福島16:17⇒福島16:23着

●東北新幹線「やまびこ52号」 福島16:50⇒大宮17:58⇒東京18:24着

(2) 作業時間

(1) 土曜 09:30～15:30 ……桃の入荷量が少なく、15:30に作業終了。

(2) 日曜 09:30～15:00 ……桃の入荷量が少なく、遅くスタートし早く終了。

(3) 参加者 (7/16:5名、7/17:4名)

長谷川 幸 (東北支所: 7/16のみ) 坂本 容子 (中央第2支所)、

文珠 正也 (コープ共済連)、佐田 真朗 (CEC)、内山 和夫 (産直グループ)

3. 作業した場所と主な作業内容

(1) 作業場所：JAふくしま未来 桑折共選場

伊達郡桑折町字館28 TEL: 024-582-2272

(2) 作業内容：選果ラインでの戦果された桃のキャップ付け、箱詰め
ギフト用の箱の組み立て (2日目の最後の1時間)

3. 活動の様子 (画像で報告)

画像をWEB上にアップしました。

事務所のPCでは見ることはできませんので、自宅のPCかご自分のスマホでご覧ください。

<https://goo.gl/photos/JdZDAnc9it5NpsrM9>



ふくしま桃選果ボランティア報告書（2016/7/15-16）

コープE C Rセンター 佐田 真朗

前夜の歓迎会の酒が若干残る中、朝の新幹線で福島へ。伊達市桑折（こおり）町の選果場へむかった。一昨年の作業は猛暑であったが、今回はこの時期にしては涼しい陽気。

桃はメインの「あかつき」の前の切り替え時期とのことで、数量は少ない。主に「暁星」（ぎょうせい）という品種だった。

今回はラインに配置され、主にはキャップ掛けの作業をおこなった。ラインは、生産者ごとに分けて投入されたあと、複数のセンサーを通過し、作業台に振り分けられる。自分は糖度高めのやや小ぶりサイズのラインで、4個ずつパックに詰める作業を担当した。

該当する桃がなければ、ラインを通り過ぎていくだけだが、条件にあうものが続くとひいきりなしに振られてくる。勝手に「フィーバー」と名付ける。当然小ぶりながらも品質が安定している生産者では、自分のラインでフィーバーとなる。見た目ではわからない品質の差はあるもんだなと感心させられる。

コツはいかに早くキャップを手にもつかかということか。前半あせって1箱ダメにしてしまうという大失態を演じてしまった。すみません。とはいえ、ベテラン作業者的の方のフォローのおかげで、楽しく作業できました。ありがとうございます。

午後の作業も早々に終わり、宿まで送っていただく。今回は飯坂温泉。静かな温泉地という風情で、しばし散歩、そのあと夕食交流会。日本酒がうまかった。

翌日もゆっくり目のスタート、向かう途中で天皇陛下の訪問地によっていただく。地元の元気になっていることを知る。あわせて桃の圃場を見学。実際に実っているところを間近で見る。たわわに実ることはこのことか。

作業の持ち場は同じ。のんびりタイムとフィーバーを繰り返す。やや疲れがでたかなというところで終了。後半はだいぶ上達したようにも（自分では）思う。今度売場で桃をみたら向きがあつてるか目がいきそう。

今回は、働いた分以上の対応をいただいたようで、多少こころ苦しくも思いました。少しでも役に立ったのならうれしいです。

ピークは次週以降で、時間との闘いとなるとのこと。次週以降参加の方の奮闘をお祈りしております。

あとは、ネットで注文した桃が届くのを楽しみにしています。桃の向きにも目がいきそうです。

ふくしま「桃」 J A共選場作業支援ボランティア活動に参加して

東北支所 長谷川

◇日程： 2016 年 7 月 16 日（土）

◇活動場所： J Aふくしま未来 桑折共撰場

◇活動内容： ラインでの箱詰め対応

■活動報告・感想など

- ・2年前の前は直売所のお手伝いでしたが、今回は桃の箱詰めラインでの対応でした。
- ・収穫のピーク前にあたる今回は1号機、2号機のみ稼働している状況、メインは2号機「暁星」の箱詰めでした。途中「ふくあかり」の品種を箱詰めする際は4号機で作業、桃の品種にあわせて箱詰めする人が大移動する仕組みです。
- ・作業は特秀 20 玉、15 玉の箱詰めに担当、ラインから流れてきた桃に傷がないか確認、20 玉は型を敷いてある箱に向きをそろえて並べていきます。全部並べ終えた後に真ん中あたりに赤く熟した桃を配置するように並べ替えます。（∵箱を開けた時に最初に見える部分に赤い桃がくるように）慣れてくると、箱詰めするタイミングでセンター候補の桃がわかるように、後の並べ替えの手間を省けるようになりました。箱詰めの終わった箱は、バーコードの向きを前方にして箱ラインに流して一区切りとなります。



・20 玉は宅急便対応しているロットで、前半は赤く熟した桃のみ箱詰めして一時待機場所で保管、ラインには流さず別途発送していました。15 玉はめったに流れてこない大玉ですが、キャップをはめて向きをそろえての箱詰め、大振りなカタチで箱詰めされた姿はキレイでうっとりするくらいでした。

・ラインでの作業は、自分の持ち場に流れてくる時はひっきりなしに、しばらくすると全然流れてこず。とムラがあり、持ち場以外で大量に流れていたらヘルプ

に入ってみんなで作業とフォローし合って進めていました。

・今回は暑さのピーク前で作業しやすかったです。暑くなると汗をかく→桃の毛が肌につきやすい→チクチクかゆくなる。。と大変だそう。



■これから対応される方は、腕をカバーするシャツやアームカバーなど保護するグッズ、暑さ対策グッズ、持参をおすすめします。休憩時には水分補給も忘れずに！

・今回は土曜のみの参加で、当初の予定ほどの収穫がなかったため夕方には活動終了。短い時間でしたが、大変お世話になりました。
作業後にJAの方に剥いていただいた桃はとってもおいしく幸せなヒトトキとなりました。大変お世話になりました。



剥いていただいた桃

ふくしま桃選果場支援ボランティア報告（7/16-17）

中央第2支所 坂本容子

今回、初めてのボランティアに参加させていただきました。

掲示板で「笑顔とどけ隊」の活動報告や募集を目にする機会もたびたびあり、独力では難しいボランティアに気軽に参加できそうな雰囲気があったことや、また、「桃の選果？面白そう！」と単純に思ったことも理由のひとつです。

土曜日の午前中に到着し、桃の選果場に向かいました。施設は想像していたよりもとても大きく、また機械化されていたことに驚きました。

作業の内容は、重さと糖度で選別されてラインを流れてくる桃をひとつひとつカバーかけや箱詰めをする作業です。私はラインの先頭の、重さ・糖度とも一番良い等級の桃の担当となりました。贈答用などに使われる桃と考えると、若干のプレッシャーです。箱の真ん中に赤い桃がくるように配置することや、桃のラインをそろえて並べるなど美味しそうに見せるために様々な工夫がされていました。ラインに流す前に選別されており基本的にはきれいな桃しか流れてきませんが、自分が買うと考えるとすこしの痛みや傷も気になってきます。

立ちっぱなしは少しハードでしたが、慣れてくると黙々と作業するのは思いの他楽しくもありました。大ベテランのお姉さん方の優しく手厚いフォローもあり、大きな失敗もせず気を楽にしてこなすことができました。作業を始めた午後には「ずいぶん上手くなったわねえ」というお言葉もいただき、がぜんやる気になりました。

2日間お手伝いさせていただきましたが、桃の量としてはちょうど最盛期前ということでそんなに多くなく、あまり働くことができず申し訳ない気持ちもありました。ピーク時には作業が夜遅くまで終わらないことや、さらに暑い中の作業になるため大変とのことも伺いました。

行くまではどのような活動かわからずすこし不安もあったのですが、一緒に参加された皆さんと仲良くなれたり、ボランティア先の方々がとても親切に受け入れてくださったりで、今回本当に参加できて良かったと感じました。また、夜の懇親会では職場の違う先輩方と色々お話できたこともあまりない機会でしたので新鮮でした。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

お土産にいただいた JA ふくしま未来の桃は甘くて本当においしかったです。

ふくしま「桃」JA 選果場作業支援ボランティア報告書

コープ共済連 文珠 正也

JA ふくしまの桃の選果作業は初めての参加でした。一昨年に参加した方からは、とても、暑くてハードなお手伝いと聞いていましたので、体調も調整し、着替えもたっぷり準備して万全の態勢で臨んだものの、当日の朝、東京は肌寒いくらいの気温、9時前に到着した福島は晴天（毎度、内山さんと一緒に時は雨が降りません）ながら、とても爽やか。さらに、作業の方は「暁星」という品種と主力品種の「あかつき」の端境期にあたり、桑折営農センターに農家から出荷される「桃」も極端に少なく、やや気合倒れの快適？なボランティアになりました。



その分、営農センターの職員の皆さんやパートの皆さんから色々お話を伺えたので、そのお話をまとめて報告とさせていただきます。

福島県は桃の生産量は日本で2位。しかし、品質は良く昭和54年から皇室宮家へ献上される桃は福島の桃だそうです。平成6年からは今回お邪魔した「伊達地区の桑折営農センター」より献上することになり、伊達地区は「皇室献上の桃の郷」ということで知られています。実際、営農センターの直売所には、おいしい桃を求めて、山形など遠方から桃を求めて来られていました。伊達の桃が献上されるに至った理由は生産者の努力はもちろんのこと、センターに光センサー選果機が導入され、品質の揃った桃が一時期に大量に確保できることも、その一因になっているそうです。



ちなみに、献上の桃は2000個の中から180個を3段階の選定で厳選しているとのことでした。実は2日目の朝、入荷が少なく作業の開始時間が遅くなったので、営農センターの職員さんに桃畑と平成27年に天皇・皇后両陛下が桑折の桃農家を視察された記念碑にも連れて行ってもらいました。

JA 伊達みらい全体では29品種の桃が生産されていて、桑折では22品種が栽培されているとのこと、品種は出荷の時期により早生種、中生種、晩生種、極晩生種に分けられています。今回は早生種の「暁星」の選果作業を行いました。桑折の生産の中心は中生種の「あかつき」で地区の全栽培量の55%を占めています。

献上される桃はこの「あかつき」です。地元の方に、好きな品種を聞いたところ、「あかつき」はもちろんだが、極晩生種の幸苦が玉も大きく甘みも強いので好きだという方が多くおられました。残念ながらこの桃は生産量が少ないのでほとんど地元で消費されるといことでした。

最後に、選果作業について触れておきます。農家から納入された桃は農家単位で1個1個、ベルトコンベアーに手作業で並べられます（写真）。桃は光センサーで糖度と重さを測り、自動的に選別されます。糖度の高いものが特秀、劣るものが秀、さらに甘みが少ないもの、小さいものは加工用に回されることになります。特秀・秀の桃はさらに色と形で細かく選別しながら箱詰めしていくのですが、ここからが人手による作業で、今回お手伝いした作業になります。作業は立ち仕事であることと、一斉に流れてくる桃を手際よくかつ、傷つけないように箱詰めしなければならないこと。さらに選別はラインを短くするために大小2種類が同時に作業台に流れて来るため、大きさを見分けて、一方にはカバーをかけ、もう一方はカバーをかけずに、それぞれ指定された箱にそれぞれに決められた向きで桃を並べるという流れ作業は慣れない者には結構気を遣う作業でもありました。この選果作業を担う人たちは桃農家ではなく、毎年この時期に集まるパートだそうです。ただし、最盛期は農家の方も参加して、当日納入分は当日出荷できるように夜中まで作業を行い、各地へ出荷するそうです。



桃は味や大きさはもちろんのこと、色や形で大きく価格が異なります。農家の皆さんは受粉の段階から手塩にかけて桃1つ1つを生産されています。センターでは少しでもよく見えるように、色付き・形の良い桃が箱を開けた時に一番に目に入る場所に並べるというような、心遣いまでしながらの作業には、逆に疑問を感じてしまいました。

というのは、自宅で食べる桃は甘く、美味しければよく、味以外の色や形にこだわるのは我々消費者であり、消費者が見かけで判断するために多くの作業が必要となっていることになります。その結果、「生産性が悪くなっているのではないか？」というのが今回の作業を体験してみて感じたところです。

生産性の悪さは、店頭価格に反映され、価格転嫁できない分は農家さんの手取りを減らします。

さらに、ボランティアを終え、自宅近くのスーパーで並んでいる桃を見ていると山梨県産に比べ福島産の桃は1個50円～100円も販売価格が違うということもわかり、原発事故の風評被害は未だに影響していることを目の当たりにし、福島を生産者の皆さんの苦悩の深さを実感するそんな体験になりました。



以上

※写真は今回参加された皆さんから提供いただいたものを使わせていただきました。

【報告】日本生協連笑顔とどけ隊 ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア

株式会社シーエックスカーゴ
総務人事部 部長 土井 一郎

今年度から、CXCにおける「笑顔とどけ隊」の活動窓口を、今回一緒に参加した宮崎さん(人事課)に変更するにあたり、「どんなものが体験してみないと、窓口とか事務局とかやりにくいでしょうから、とりあえず参加してみますか!」ということで、今回一緒に参加させていただきました。

JR東福島駅に今回参加の10名が集合後、JAふくしま未来様の飯坂東支店に移動して先方にご挨拶。すぐに防止とエプロンで装備を固め、隣にある共選場に行き、それぞれ役割分担が決められ配置完了。私は箱詰めされた桃が出荷製品として払い出されるシュートに張り付き、パレットに積みつける係を拝命。

この共選場、セットラインは4本。生産者さんが搬入してきた無選別の桃を、まずはスキルの高い選果係の方がキズや形などを確認。良品を小さなタイヤのようなものに乗せてライン投入。不良品と判断されたものは×ラインに流れて、目の前の即売所で激安で売られるか、桃ジュースになる運命をたどります。オークラ製のコンベアに乗せられた良品は、放射能測定器をくぐって、糖度を測定する機械で糖度別に「特秀」「秀」「赤秀」のランクに、上面から画像検知する機械で大きさ別に「13~25(ひと箱に何個入るか)」に、まさに一瞬に分けられ、そこから横に這うラインを通して、ランク別・大きさ別のシュートに落ちてきます。それをその間口に張り付いている作業者が箱詰め。大きく、糖度が高い「特秀」は一個一個養生されて丁寧に、そうでない桃も、爪などで傷つけないようにしながらも、素早く向きを揃えて詰め、ラインに流していきます。下流では上にプチプチが置かれ、自動的にシールされ、これまたランク別・大きさ別のシュートに落ちてき、パレットに積みつけられ、100ケースの正パレにして出荷待機場所へエンジンフォークで搬送。

はっきり言って、やっていることや気を付けている心構えは我が社の現場と全く一緒です。2日目はこの機会で選別された桃を箱詰めする工程につきましたが、班長さんの「ここに気を付けてね」という注意があまりに我が社の現場と酷似していたので思わず笑ってしまったくらいです。

1泊2食用意してもらい、ボランティアというより、我が社でいう支援そのものですが、とても楽しくやらせていただきました。ただ、このボランティアをJAふくしま様がコープふくしま様を通じて日本生協連に要請している背景にはなかなか厳しいものがあるようです。ひとつは人手不足です。桃以外にも梨やリンゴを選果するとはいえ、季節波動の強い共選場の働き手がなかなかおらず、伺った当日も派遣の名札を付けた方々が主力。隣の共選場では大きな投資を伴うロボットでの箱詰めを選択されたほど深刻だとのことでした。

もうひとつは、原発事故による風評被害に未だ悩まされているという点です。JAの偉い方だけではなく、現場で作業されておられる方からも、「向こうに帰ったら福島の桃は全部検査して大丈夫! って宣伝してね」と声掛け頂きました。風評の程度はとにかく、地域の人々の危機感で最も強いのが放射能であることは間違いありません。皆さんのお話に触れながら震災から5年以上経つにもかかわらず、被災地から遠距離にある、しかし同じ県の地域が、原発事故にまだまだ影響を受けている実態を実感することが出来ました。

一緒に行かれた皆様、この企画をセッティングして頂いたすべての方に感謝申し上げます。
ありがとうございました。

以上

福島桃選果場ボランティア参加報告（2016年7月23～24日）

——今後参加する方へのアドバイス——

松田 千恵（生協総合研究所出向中）

桃選果場でのボランティアについては、一昨年参加した際に作業内容等をご子細に報告しましたので、本報告では、以降に参加する方々に向けた注意点に絞って簡略にお伝えいたします。

今回の経験では、作業内容やルールについてほとんど説明を受けられないままに“実戦投入”された結果、作業を進める中でさまざまな指摘を受けました。松田と同じ轍を踏まないように、レーンで桃の箱詰めをする作業に関し、以下についてご承知おきください。宙ではわかりにくいと思いますが、現場に立てば意味を理解いただけると思います。

なお、別の作業を担当される方には役立ちませんが、悪しからず…。

1. 箱詰めする際には裏を返して、傷みがないことの確認を

桃は、1個ずつ“お尻”を上にしてドーナツ状の容器に乗って流れてきます。それを一瞬で裏返して、ヘタの面に傷みがないかどうかを一目で確認してから詰めていきます。

ちなみに、等級が「秀」の場合には、桃の表面に小さな凹みなどがあっても、皮が破れていなければOKなので、あまり神経質になる必要はないようです。最上等級の「特秀」は規格が厳しいので、気になるものはリーダーの方に確認を求めてから詰めるようにします。

2. 箱詰めする桃の“筋”の向きについて

桃は大きさによって箱詰めの個数が決められており、小さいほうから、22個、20個、18個、16個、15個、13個という規格があります。桃を“お尻”を上、筋の向きを揃えて詰めることになっていますが、詰める個数によって“筋”の向きが決められているようです。以下のとおりです。

“筋”を真横に向ける規格 22個、20個、15個、13個

“筋”を斜めに向ける規格 18個、16個

3. 詰め終えた箱を足元のコンベアに降ろす際には、“そっと”

気が急くと、詰め終わった箱を降ろす作業が粗くなりがちですが、そっと静かに降ろさないと、桃がクッション材から浮いてしまうとのこと。また、箱がコンベアの奥のガードに突き当たるように押し込まなければなりません。

4. 背面を流れている空の段ボールが滞ったとき

これから詰めるべき空の段ボール箱が背面のコンベア上を流れています。これがしばしば滞るので、気づいた都度、手で助けて流してやります。ここまではルール化されている作業です。

とりわけ“難所”になるのが、上から流れてきたコンベアの角度が変わる最上流の個所です。ここでたびたび流れが止まってしまうので、つかえるたびに気を利かせてそのポイントまで走って行き、促すようにしていたところ、お叱りを受けました。そこにはセンサーが働いており、つかえたときには係の方が飛んできて対応することになっているとのこと。余計なことに手を出して、失礼してしまったようでした。

5. 現場に持ち込む荷物の置き場

背面の段ボールのコンベアの下に、私物を置いておくための段ボールが配置されていますので、現場に持ち込んだ荷物はその中に入れます。荷物を袋とかに入れて一つにまとめておくと便利です。

6. 作業中の足幅は広めに

現場で隣り合わせたベテランさんから教えていただいた、腰を楽にするコツは、足幅を広めに取って構えることだそうです。試してみてください。

今週末から暑さが増してきそうです。着替えを多めに準備して行かれたほうがよいかもしれません。

とりあえず思いつくのは以上です。忙しければ時間はあっという間に過ぎますので、がんばってください。

《ふくしま「桃」JA 共選場作業支援ボランティアに参加して》

株式会社シーエックスカーゴ
総務人事部人事課 宮崎朋子

7月23、24日にシーエックスカーゴのボランティア担当として活動内容を勉強させてもらう為、「笑顔とどけ隊」のふくしま「桃」JA 共選場作業支援ボランティアに参加させていただきました。

10名の参加ということで初対面の方々と1泊2日は緊張しましたが、学びの多い充実した楽しい2日間を過ごせました。

桃の選別は、「透過式選別」という選別方法を使用しており、センサーで桃の糖度や大きさ、重さを測った上でランクや大きさ毎に各ラインへ流されていき箱に詰めていくという作業でした。ラインに流れてきた商品を指定の箱やパックに入れて別のラインへ箱を流し、次の工程で箱をパレットに積んでいきます。この作業風景はシーエックスカーゴのライン作業と似ておりとても親しみがあり、どのようなライン行程でどんな仕組みなのか疑問に思いながら楽しんで作業することができました。作業をする際には、現地の方々から優しくお声を掛けていただき、親切に作業手順も教えていただきました。お話をする中では、東日本大震災の原発事故直後の状況も教えてもらいました。当時は、桃農家の方が親戚等に桃をお裾分けなどしても断られるなどしてたくさんさんの桃が選果場に運ばれとても忙しかったそうです。風評被害に苦しんだという当事者の方々の話は、話す際の声や表情からも胸の痛みが覗えるほどとても重く感じ印象に残りました。私自身、被災地へ訪問しボランティアをしたことがありませんでした。そして被災地にも訪れたことがなかった為、震災が落とした今も消えない“心の影”を直接見る事ができた貴重な経験になりました。

今回、生協グループの方とボランティア活動を通して少なながらも交流を図ることができ、生協グループの一員であることを再認識することができました。また、現地に行き現地の方と共に同じ時間を過ごしながらか交流を図れたことがとてもいい機会になりました。そして、現地での作業ボランティアだけで終了ではなく、福島県の桃の宣伝として家族や友達に福島県の桃のおいしさを伝えていくことが大切だと思いました。これは、JAさんと最後お話をした時もそのようなことを話してくださり、ボランティアが単発の物ではなく、互いの協力体制や信頼関係の基に行われていること、今後の関係づくりへの橋掛けであることを学びました。産地支援ということですが、今後も、さまざまな活動に参加し生協グループ全体と交流を図っていきたいと思います。そして次回は、カーゴの窓口として新卒社員などボランティアに参加したことがない若手社員を誘って活動に参加したいと思います。

夕食の際、私が震災ボランティアをしたことがなく今更ながらこれからしたいという話をした際に、みなさんが被災地へのボランティア活動を「今からでも全く遅くないよ!」と励ましてくださったことがとてもうれしかったです。

今回の企画を計画、準備して下さった内山さんをはじめ、一緒にボランティアに参加したみなさま、ありがとうございました。今後もよろしくお願い致します。

**日本生協連笑顔とどけ隊 ふくしま「桃」選果場支援
ボランティアに参加して**

コープ共済連 契約事務部

小川 康子

日 程： 2016 年 7 月 23 日（土）・7 月 24 日（日）
活動場所： J A ふくしま未来（湯野共選場）
作業内容： 桃の包装箱詰め作業
参加者： 10 名（男 5 ・女 5）

【報告】

J R 東福島駅に 9 時 10 分に集合し、J A ふくしま未来の共選場に向かいました。到着すると早速、身支度し作業開始です。私はコンベアに乗せられランク別、大きさ別で流れてきた桃を、点検し梱包する作業をしました。1 個ずつ容器に乗って流れてきた桃を瞬時にヘタの面に傷みがないか点検し向きをそろえて箱に並べる、大きくて立派な桃のラインではフルーツキャップをかぶせ箱にそろえて並べるという作業で立ち仕事です。コンベアからラインに流れてきた桃を処理しきれなくなってしまうとラインがストップしてしまうと伺いプレッシャーに感じる事もありましたが作業員の方々の見事なチームプレーにカバーされ 1 日目無事に終了。

2 日目は皆さんの優しいご指導のおかげで仕事をしっかりこなす事ができました。7 月中旬が桃の出荷の最盛期です、生産者さんが決められた時間内に搬入してきた桃は当日に梱包するとのルールがあるそうなので、選果場の人手不足が深刻な事態であるという事は、しばらくの間夜遅くまで作業しなくてはならない日が続くのかもしれません。

【感想】

日本生協連笑顔とどけ隊の活動報告やボランティア募集を掲示板で何度も拝見していましたがなかなか参加できずにいました。一昨年に『原発事故を発端とする諸々の事情により、選果場の人手不足が深刻な事態となっています』とボランティア募集を見たとき初めて「参加しなくてはいけません」と思いましたが結局「8 月の炎天下での農作業大丈夫かな、かえって迷惑かけたらどうしよう」等々と思案しすぎて見送ってしまいました。昨年は募集なく今年 2 年ぶりに募集があったので遅ればせながら参加させていただきました、参加してみて色々な心配ごとは不要だったなと思いました。

箱詰め作業員は年配女性を中心ですが、その方々と忙しい作業中のさなかほんの少しでしたが交わした地元のお話はためになり、2 日間甘い香りの漂う現場での作業はあっという間に終わりました。

「明日も来てくれるんでしょ」となどと言っていただきましたが「来週また他のメンバーが来ますのでよろしくお願いします」とご挨拶し、申し訳ない気持ちで帰ってきました。

「福島の桃ほど安全なものはないのよ、きちんと検査しているからね、帰ったら宣伝してね」と皆様がおっしゃっていたので今後は福島のためにそれを少しでも実践していこうと思いました。

以 上

＜笑顔とどけ隊＞ 福島 桃 JA 選果場作業支援報告（2016/7/23～24）

商品共同仕入企画室 西垣 裕智

このボランティアは一昨年が始まり、去年はなかったので今年は2回目となる。私は一昨年は参加しなかったので今年が初参加となる。正直申しあげて、このボランティアのねらいがわからないゆえに参加したと言っても良い。バイトも集まらないほど人が足りないということと、体験を通して風評被害の払拭と福島産品への理解促進がねらいではないかと想定していた。ただ、労働力不足という点ではどこの産地でも同じことがあるだろうから、むしろ後者の点、福島産地と都会の消費者の結びつきが主要なねらいではないかとも考えられた。

実際には派遣社員も多くいたが、他と比べて取り立ててこの地域が人材に困窮しているのかどうかはわからなかった。最盛期なので猫の手も借りたいというのが本音だろうが、シロウトが役に立つのかという点と、現場の作業員含めて現地が余計な気苦労をすることによるマイナス面がないのかという点が気がかりな点だ。プラス・マイナスでどれほどの効果があったのかはわからない。私は1日目はラインに入って桃の箱詰めを行い、2日目は出庫場で箱をパレットに積みつける役割だった。いずれも貴重な体験であった。JA Fukushima未来の皆様には感謝申しあげたい。

以上

笑顔とどけ隊 ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア



日本生活協同組合連合会
品質保証部 屋代 香保里

今回、初めてボランティアに参加させていただきました。何もかもが新鮮で、勉強になることばかりでした。

共選場へ向かうバスの中では、運転手さんより桃の木は寿命が30年で植え替えることを早速教わりました。恒久的に、同じ木から桃が生り続けることなんてあり得ないのですが、聞いてなるほどでした。

到着後、すぐにラインへ投入され、ベテランの方に作業の手順を教わりながら、いろんな福島のお話を伺いながら箱詰めの作業を行いました。

人手が足りなくて高校生のアルバイト、他地域からの派遣の方に頼らざるを得ないこと、今も出稼ぎの流れで青森の方が40日間ほど共選場内にある宿舎で寝泊まりしながら作業にあたることなど。

話の中で何度も、「東京に帰ったら、福島の桃を宣伝してね」という言葉を聞きました。私の中では、福島の農産物に対する抵抗は全くないのですが、やはり放射線の風評被害はまだまだ拭い去れていないのだと実感しました。

作業で難しく感じたことは、キャップという緩衝材を被せた桃を入数に応じて箱詰めすることです。15個詰めは横5列の縦3列で分かりやすいのですが、他の個数詰めがどう詰めてよいのやら、コツをつかめないまま終わってしまいました。

素晴らしいと感じたことは、入数に応じて桃のお尻部分の線を横に揃えたり、斜めに揃えて箱詰めすることです。箱を開けた際の見目の美しさにこだわった作業ですが、さすが日本人。海外から称賛される日本人の美意識の高さなのだと感心しました。

ボランティアとは名ばかりで何のお役にたてたのかと疑問ですが、スーパーで桃を手取る際、福島の方々、今回ご一緒したボランティアメンバーの顔が浮かびそうです。

何事も現地、現場を知ることは大切ですね。普段の職場での仕事だけでは得られない貴重な体験をさせていただいたと感謝しています。これからも機会があれば、何かお手伝いを続けていけたらと思います。

福島、桃の共選所ボランティア参加報告（2016年7月23・24日）

ブランド戦略本部 開発管理部 堀 茂

7月23日(土)～24日(日)の2日間、JAふくしま未来 湯野共選場で、選果された桃を箱詰めするライン作業のボランティアに参加しました。一昨年に参加したときは、8月の下旬ということもあり梨の箱詰め作業になりましたので、桃の箱詰め作業については今回が初めてでした。

光センサーの選果機で、糖度と糖度を判定し、格付けをしていきます。トレイに乗せられた桃が、その格付けに応じた所にシューターで落ちてくるので、それを箱詰めする作業でした。

“特秀／秀／赤秀の16玉／20玉“というように、落ちてくるシューターは等級と大きさによって決まっており、そこに人が配置されます。

1日目は、小玉のラインに配置されました。忙しくないところだったのですが、農家毎に偏りがあるのか、小玉が多い農家のときは、どどどと桃が落ちてきます。その時は、大急ぎで作業しますが、本当にピンチのときには、周りの方にフォローしていただきました。

梨と違ったのは、桃をただ箱に詰めればよいというわけではなく、桃の“すじ”の方向を、きちんと揃える必要があるということです。根が雑な性格なためか、自分では揃えているつもりでも、“師匠”から、“もっときれいに”、“贈答用にも使われるのだから、見た目も大事よ”と、ご指導をいただきました。産地の方の、桃にかける思い・“福島の桃”のブランドを守るプライドを感じました。“とにかく丁寧に”と心がけて作業し、最後には“師匠”にもお褒めの言葉をいただいたのは、嬉しかったです。

1日目の夕食は、参加者で懇親をしました。非常に良い宿舎で料理も美味しく、話にも花が咲きました。私よりかなりきつい作業をされている方も多く、2日目はもっとがんばろうと決意しました。

2日目は、“特秀”という最も甘い桃のゾーンを担当しました。1日目と比較すると、繁閑の差はありつつも忙しく、忙しいときには箱にシールを貼る間に桃が溜まり、腰を伸ばして一息つく間もないほどでした。見かねた周囲の方々に助けていただき、負担の少ないゾーンに徐々に移動することとなりました。もっと役に立ちたいという思いはありましたが、ご迷惑をおかけするわけにはいけません。

暑さについては、たまたまその時涼しかったことや、スポットクーラーの設備があったので問題ありませんでした。

2日間足らずの作業で、自分が果たして役に立ったのか、足を引っ張っていなかったか、もう少しうまくやれなかったのかと、少し申し訳ない思いで福島を後にしました。

素人を快く受け入れていただきご指導いただいた、“師匠”をはじめとするJAふくしま未来の皆様には、改めてお礼を申し上げます。今回は、貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

以上

報告書 (2016/7/23-7/24)

コープ共済連 事務本部 共済金第2部

小林 香 (こばやし かおり)

5月・6月と続けて南相馬の活動に参加し、笑顔とどけ隊の南相馬での活動が9月まで無いと聞いて、桃ボラに参加してみようかなと思いました。桃を食べると口周りがピリピリするので、桃の毛(?)で痒くなったりしないかという心配があり、長袖装備で参加しました。

1日目の作業開始前にJAの方から持ち場の割り振りがあり、私は「パッケージ担当」に任命されました。パッケージ作業は女性4名+私で、主に桃を手作業でキャップ(白い網)に入れて段ボールに入れたり、そのダンボールを組み立てたり、段ボールに品種や等級のスタンプを押したり、が主な仕事で、ひと段落つくとい他の多くの方々と同様に機械のラインに入って桃の箱詰めに参加しました。

桃は柔らかいので取り扱いが難しそう…と構えていましたが、メインで扱う品種「あかつき」は比較的(時期もあってか)しっかりした手触りでした。それでも、箱詰め後に箱にスタンプを押す際に手で箱をおさえたりスタンプを強く押さないように注意が必要でした。

教えて下さった皆さんの桃の取扱いは「素早くも優しく」で、私も徐々にスピードアップを図ったのですが、約1日半の作業で慣れた頃に去ることとなり、皆さんに少し申し訳ない気持ちでした。それでも、「帰ったら福島の桃のこと広めてね」という大事な使命をいただいたので、それをしっかり果たすのが恩返しと思い、帰ってから実家や親戚や友人にも桃をおすそ分けして美味しく食べてもらいました。共撰場の皆さん、特にパッケージ作業を教えて下さった皆さんに、とても感謝しています。

ちなみに、心配していた痒みは多少ある程度で、かぶれることもなく作業に支障は生じませんでした。指が出るタイプの手袋の手袋を準備していけば良かったなあとと思いました。

また、桃とは直接関係ありませんが、今回宿泊した旅館の方ともお話することができ、桃畑の前は一面桑畑だったこと、化繊の台頭で絹が売れなくなり桃などを始めたことなど、伺うことができました。

これからも、福島に行くだけでなく、福島の魅力を実感して他の人にも伝えられる動きができたと思います。



←美味しい桃たち。

笑顔とどけ隊：ふくしま桃選果場ボランティア報告（7/23-24）

渉外広報本部 伊藤 治郎

7月23、24日にJAふくしま未来 湯野共選場にて桃の選果ボランティアに参加いたしました。今年は南相馬に次いで2回目の参加です。

今回は日本生協連のほかコープ共済連、CXカーゴ、生協総研からの参加もあり、初めての方とも知り合える良い機会となりました。西垣さんや共済連の小林さんとは南相馬でも一緒に活動する機会が増えそうです。

JAふくしま未来は、渉外広報の仕事でもある協同組合のネットワークである「IYC記念協同組合全国協議会」の場でも良く登場され、7月1日には「地産地消ふくしまネット」として菅野組合長が日本生協連に来られたというご縁もあります。

私も含め桃の選果が初めてという方も何人かいて、作業の足を引っ張らないか心配でしたが、現場の人が親切に教えてくださり、皆さんしっかりと役割を果たしていたようでした。私はすでに箱詰めされた桃を規格ごとにパレットに積みつける作業を行っていたため、桃に直接触れることはありませんでした。しかし、規格には赤外線センサーで測った糖度や見た目から赤秀、特秀、特選の3種類に、5kg箱に何玉入るかで13玉から22玉までと本当に細かく分かれています。「こんなに細かく分ける必要があるのかねえ」と現場の人は話しながら仕分けていました。品種は「暁星」から「あかつき」といった早生品種が集荷されている時期でしたがこちらも様々な種類があるのだということが理解でき、ちょっと勉強になりました。

この選果場では桃の後にはりんごや柿などの作業もあるようで、さすが果物王国福島、本当に多様な産物を生産していることを実感しました。

最後に、ボランティアで参加しているにもかかわらず、飯坂温泉のいい湯（うめなければ熱くて入れませんでした）と料理までJA側で手配していただき、おまけに桃のお土産までいただいてしまい、本当に恐縮してしまいました。

これからも福島とは業務とボランティアの両面で関わっていきたいと思います。

福島 J A ふくしま未来選果場ボランティア（7/23～24）報告書

内部監査室 丹敬二

久しぶりの福島県ボランティアで、初めての桃の選果・箱詰めを手伝ってきました。

J R 東福島から飯坂温泉近くの湯野共選場に飯坂温泉「花の湯」のマイクロバスで向い、途中運転手さんに道端に見える果樹園の解説をしていただいた。今の時期は桃の収穫の時期で、赤く色づいた桃の木があちこちに実っていた。それ以外にも色づく前のりんごが実っていた。

J A ふくしま未来の湯野共選場について、桃の選果・箱詰めの作業をさせていただいた。7月下旬の時期は、メイン品種の「あかつき」の出荷の最盛期で、各農家が早朝収穫した桃を、午前中共選場に持ち込み、毎日 13 時までに持ち込まれた桃は、当日のうちに選別されて箱詰めされ出荷されることになっているとのことだった。

働いているのは、高齢の女性と男性が中心で、数人の中高校生のアルバイト、そして何人かの派遣職員が従事していた。ライン毎のリーダーのお母さんの話では、震災（原発事故）前は、近隣のパート職員に頼っていたものが、最近は集まらずに派遣会社頼らざるを得なくなっているとのことだった。（改めて、この時期のボランティアが役立つことを感じる事ができた。）

また、共選場の業務量はやっと震災前の状況に近づいてきたとのことだった。震災直後は、各農家がギフト用で直接消費者とやりとりしているものが風評被害で出荷が激減し、その分も共選場に持ち込まれた、また共選場に持ち込まれるものはその後の農協や行政からの保障の対象になるとのことで、共選場の仕事は、毎日夜まで続いていたとのことだった。しかしさすがに5年を経過し、この日は終了が 18 時ころになっていた。こうしたお話をお聞きして、改めて、原発事故の影響を感じたものでした。

桃の選果は、光センサーを通して、糖度と形状（大きさ）を判定された桃が、各規格ごとに箱詰めのスペースにベルトコンベアーで運ばれてくる。運ばれてきたものをそれぞれの箱に手詰めをする要領だった。その規格の細かさと箱詰めにあたっては、桃の向きをそろえて入れるなど日本の農産物の選別の詳細さを垣間見ることが出来た。（ここまでののかと驚いたのが正直なところ。）

2 日間の短い体験でしたが、初めての桃の箱詰めと、少しでも父の故郷福島に貢献できたかと思い、良い時間を過ごせました。飯坂温泉にとめていただいたことも美味しい桃をいただいたことも改めて感謝して感想といたします。

来年も募集があれば応募したいと思います。

J Aふくしまみらい桃選果場ボランティア報告（2016.7.30-31）

共同開発推進部 上垣

「笑顔とどけ隊の一員」と言いながら、前回の活動参加はちょうど昨年6月南相馬お寺の草刈り。さぼってばかりの“不屈き幽霊隊員”です。母親の介護があるとは言え、子ども保養プロジェクトも2年くらい参加しておらず、『名ばかり』状態が続いており、申し訳ない気持ち。1泊2日で久しぶりの活動参加でした。

J Aふくしまみらい桃選果場の作業は一昨年続き、今回2回目。前回は桃の箱詰めでしたが、現場で「それ違う！」の指摘もらいながら。今回も“覚悟”して望みましたが、主に作業は箱詰めされた桃のケースを木製パレットに積む作業でした。

ベルトコンベアで箱詰めされたケースが流れてくる。これを「13玉」「15玉」「16玉」「18玉」「20玉」「22玉」「25玉」でそれぞれ分けてパレットに積む。ラベルはグレードで「特秀（白）」「秀（青）」「秀（赤）」と分かれている。ラベルを常に作業者が見えるように積む。1段11ケースで2段毎に向きを変える…。

主に15玉・16玉・18玉辺りにいて作業。単純ですが、一気に流れてくると15玉と16玉のケースを取り違えたり、ラベルが見える方向にしていなかったり、のミスもありました。一緒に作業している方々のやり方を見たり、教えてもらいながらの作業でした。

作業上、男の人ばかりでしたが、高校生から年配の人まで。黙々と作業する感じでしたが、なかなか自分の受け持ち辺りのケースが流れて来ない時もあり、周囲の人とも短い時間ですが、話が出来ました。

「40年前から地元桑折（こおり）で自分も桃やりんご作っていた」とのお話をお聞きすることが出来ました。以前は養蚕業がさかんだったが、果樹栽培に切り替わったとのこと。「桑折」という地名も納得でした。

土曜日にパレット積み方をレクチャーしてくれたのは福島工業高校2年の方でした。感じが良い“好青年”で丁寧に教えてくれました。高校生だけでなく、東京農業大学の方など対応も気持ちよく出来る人ばかりでした。

日本生協連からは今回、10名参加でした。自分と違う部署の方々と話をする機会はふだん無く、笑顔届け隊の活動でいつも感じるのですが、いろいろと話しが出来て良かったです。

宿泊は飯坂温泉に取っていただき、温泉に浸かることも出来ました（すごく熱いお湯でした）。ここに泊まるのはちょうど5年前の大震災後（3月22日から1週間）、日本生協連としてコープふくしま支援に入ってから。あの時は毎日夕方頃になると『がたがたっ』と地震が続き、福島原発の影響で福島市内でも「みんな散歩もしなくなった」と言われていた頃。飯坂の宿も営業しているところが限られ、夕食はおにぎりとお味噌汁。支援関係の人しか宿泊していない状態。夜に近所の小学生が宿のロービーに集まり、「何だろう」と思っていると京都大学放射能研究の人達が子どもたちに器械を当てる放射能検査。あれから5年なんだなと思いました。

夜、ちょうど福島市と飯坂温泉の花火大会があり、2ヶ所の打ち上げ花火を旅館の8階から見る事が出来ました。食事時の飲み物までもJAでご負担いただき、2日は桃までいただきました。申し訳ないくらいでした。ボランティアでこんな事言うのも何ですが、また福島状況考えるとこんなこと言うのはお叱り受けますが、久しぶりに気持ちのんびりする時間を少しもらいました。

また、いろんな人と一緒に作業し、会話も出来、良い機会でした。

有難うございました。お世話になりました。

これからも出来る範囲で活動に参加させていただくつもりです。

以上

ふくしま桃選果場支援ボランティア報告（7/30-31）

日配商品部 足立 玄

今回、初めてのふくしまでのボランティアに参加させていただきました。

東日本大震災後、しばらくの間ボランティアをしておりましたが、震災後 3 年経過した時点から足が遠のいておりました。しかし、一番重要なのは「継続すること」だと思い今回の参加を思い立ちました。

私が参加したのは J A みらい伊達支部の桃選別仕分け場での作業です。ここでは各農家さんから仕入れられた桃を糖度やサイズ、キズの有無などで選別し、最終的には段ボールに箱詰めしてパレット出荷します。

作業は主に仕入れた桃の籠をベルトコンベアに積載するものと、最終箱詰めされた桃をパレットに積載するというものです。桃の箱は平均 5 kg 程ある為、暑さの中で長時間対応すると結構なハードワークです。作業にも色々と“コツ”があって我武者羅に動いていると「力みすぎ!」「こうすればもっと楽に運べるよ」等諸般アドバイスを頂けました。最盛期ということもあって学生やこの時期だけ参加される地域の方、J A の方も参加され総出で作業しました。皆で集中して作業すると 2 日間はあっという間でした。

今回の参加で被災直後から 1 年くらいまでのボランティアと異なり、緊急の作業そのもので「支援」を行うという 1 側面的なものではなく「共働」を通じてお互いの信頼関係を深め合うのも重要な役割になっているということを感じました。一緒に働いている現地の方からも「生協ってどんな活動しているの?」とか「日本生協連ってどこの生協?」等素朴なご質問を頂くことも多々ありました。こうしたお互いの交流を通じてふくしまのこと・生協のこと等お互いの理解を深め合うことが今後ますます重要になって来るのではないかと思います。

最後に J A の方からは宿代や桃を含めて何から何までサポート頂いて本当に恐縮してしまいました。感謝の言葉しかありません。冒頭述べた通り今後も継続的にボランティアに参加していきたいと思います。

ふくしま桃選果場支援ボランティア報告（7/30-31）

農畜産部 中瀬 大生

初めて福島桃選果場ボランティアに参加させていただきました。

仕事の内容は、桃の箱詰めでした。

20玉、22玉、16玉、15玉といった規格、特秀とか青秀、赤秀といった等級別に分かれた桃を、外側の状態を見ながら、ダメなものは選別して、ヘタを下にして決められた方向に向けて箱詰めするという作業です。

最盛期だったとはいえ、ラインから作業台に流れてくる桃の量が一定でなく、時にラッシュ（佐田さんが「フィーバーと書かれていましたが」のように一気に来たり、時に途絶えたりしたので、他の作業台にヘルプに行くように指示されたり、自分で判断して行ったりというのが2日続きました。

少なくとも桃を落とさないように、20玉と22玉を間違えるような致命的なミスはしないようにと気を付けたつもりですが「フィーバー」のときには、冷静さを保つのが大変で、選別が甘くなったかもしれません。

作業が終わって数日経ったいまでも、役に立てなかったかもしれないと不安な気持ちになります。

桃のボランティアは1昨年も応募しましたが、べ切後ということで却下されました。今回は、念願の参加でそれだけでも感謝です。働いた以上の待遇（旅館や、桃のプレゼント）を受けてしまったようで、恐縮しきりです。

今回の桃選果場の作業のようなボランティア活動は、どなたにもお勧めしたいと思います。むしろ、こちらが元気にさせていただけます。今後も空きがあれば、このような作業に参加したいし、また、除染のような作業にも加わっていきたいと思います。

機会を与えていただき、ありがとうございました。

以上

＜笑顔とどけ隊＞ 福島選果作業参加報告 （2016/7/30～31）

水産部 藤野 健司

1. 作業内容

- ・桃（あかつき）の選別ラインへの荷上げ。

2. 学んだこと

- ・ロット別の管理（農家コード、数量）、選別時に混ざらないようにラインに上げる。
- ・少ないロット、多いロットについての荷出しのタイミング。（どうすればスムーズに選果できるか）
- ・体力の配分。力仕事なので、一日の中で頑張り過ぎない（バテる）
- ・桃の木を近くで見られたこと。生り方や手当ての仕方がよくわかった。（日曜の作業後に伊達駅に行く前に天皇陛下や皇太子殿下の訪れた農園を訪問した）

3. 気づいたこと

- ・やはり人手不足。大学生の研修生もいるが、要所に最低限のひとしかいない。ラインはフルではなかった。
- ・ももの品質。農家ごとに見るとそれぞれ特徴があった。
- ・作業の人の人懐っこさ。東京から来たことをしきりに感心されていた。
- ・前回もそうだったが、昼食の弁当、宿泊代（一泊二食）についてはJA持ちで、何か半ボランティアという感じで逆に申し訳なかった。お土産までもらった。

4. 次回へ向けて

今回は力仕事だったが、今後は箱詰めなどもやりたい。

参加者の皆さんのアグレッシブさに感動しました。とても刺激になりました。花火も見られて良かったです。

JA未来の高橋さん、八島さん、他選果場の皆さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

以上

ふくしま桃共選場ボランティア（7/30-7/31）報告

ブランド戦略本部
マーケティング部 内田実智子

1. 作業内容

- ・ラインで流れてくる等級・サイズ別の桃を指定された箱に、指定された方法で詰める。



2. 作業の感想

- ・サイズ・等級別に並べ方、緩衝材を装着するのかどうか、桃のラインの向き、色目の配置方法などが異なります。特に色や向きをそろえる（色のつき方によって真ん中であったり端っこであったり）ことが難しく、迷っているうちに桃がどんどん自分のラインに流れてくるのでとてんでこ舞いとなり、色や向きの揃え方が雑になってしまいます。
- ・心配していた暑さは思ったほどひどくはありませんでしたが、やや前かがみの姿勢でずっと作業をしていることや、どんどん流れてくるとお茶を飲むことすらためられる程のこともあり、休憩時間にはぐったりでした。
- ・ただし、慣れてくるとリズムが出てきて無心に作業できるため、楽しかったです。やっと慣れてきてコツが多少はつかめた、という頃に帰ることになるので、やや欲求不満が残りました（とはいえ、あれ以上続けるのは腰に来ます・・・）。

3. 全体の感想

- ・桃の選別場の作業は2年前にも参加させて頂いていますが、相変わらず人手不足が続いているということで、なかなか解決しない課題であることを認識しました。東京農大など都内の大学からアルバイトを募集して1週間～10日程来てもらったりしているようですが、逆に地元の福島大学などには募集をかけてもいないようです。「東京からでないと来てくれない」ということでした。

・夜は近くの飯坂温泉に宿を取って頂き、たまたま福島の花火大会がある日であったため、宿泊した宿から花火を見ることができました。また、宿泊費や宿泊時の飲み物（アルコール含む）代を負担頂いたり、お土産にも桃を頂いたり、帰りに駅まで行く前に、桃畑や記念碑をご案内頂いたり、JAの皆様には大変お世話になりました。ここまでして頂くのは心苦しい気もしましたが、福島の誇りとがんばっておられる姿、とにかく青空に映える桃の美しさに強い共感も覚えました。



ふくしま「桃」JA 共選場作業支援ボランティア報告書

CTJ 海外商品グループ
齊藤雅也

1. 作業内容

7月30日（土）終日：梱包済み商品のサイズ別パレット積み。

7月30日（日）午前：前日に引き続き、梱包済み商品のサイズ別パレット積み。

午後：桃の箱詰め作業。

2. 学んだこと

- (1) 生産者(農家)の生産者の主体は高齢者。土日は会社勤めの息子娘その配偶者が手伝うので、土日が忙しくなる。
- (2) パレット積み作業者は臨時作業者が多く、平日サラリーマンをしている人や、定年後の方が作業を手伝っている。
- (3) 8月末になるとリンゴの選別に入る。この共選場では葡萄やサクランボも選果されるが、選別機に適さない製品の場合は人海戦術での作業になる。
- (4) 伊達管内には合計5つの選果場がある。生産者が積み卸す選果場は指定されているが、全量をJA経由で販売する必要はない。
- (5) 去年は都内や地元の約200人の大学生アルバイトが集まり、1～2週間程度作業を手伝った。

3. 感じたこと・気付いたこと

- (1) まだまだ人手を必要とする産業分野である。特に季節的変動が大きい。
- (2) 日本人の仕事の丁寧さをとても実感した。箱詰めの際の桃の向き、桃を包むときのスポンジの高さ位置(桃が大きく可愛く見える包み方)、等級ラベルシールが荷卸のときに分かりやすくパレット積みする、など。これらは普段の工場点検でも気を遣うべき丁寧さだが、今回もこれら丁寧さが見られたことに嬉しかった。
- (4) 今回のボランティアでも色々な人と知り合いになりました。現地の方との会話を通じて価値観や生活の目線を知ることができたのはとても有意義でした。また、日本生協連の他部署の人たちと交流をもち、お互いを知り合えることは自分の仕事を進める上でも励みになります。

以上

福島桃ボラ報告書

広報部出版G 富岡美和子

参加日程●7月30、31日

作業内容●桃の箱詰め

流れてくる桃を一つずつチェックして、梱包材の敷かれた箱に詰める（またはフルーツキャップにくるんで箱に入れる）作業を2日間行ないました。

感想●

★桃の筋を合わせることをはじめ、フルーツキャップにくるむ際に桃がどのくらいキャップから出ているのがベストか、箱の下から上に向かって桃の色が濃くなっていくグラデーションをつくれるように桃を選んでいく……など、商品を美しく見せるための工夫（決まり）がたくさんあり、懸命に実行するもフルーツキャップを一回の動作のみでうまく装着するのが一番難しかったです。

★最初、教えてくださった班長さんのダメ出しが続き、こ、細かいよ～！と思いつつも「商品を一箱一箱大切に仕上げたい」「箱を開けたときに最大限美しく見えるように」という気持ちが伝わってまいりました。二日目はなんとか合格ラインに到達できたのでは。

★農家によって桃の仕上がりがかなり違うのだなと感じました。私が作業したのは「特秀」でどれも立派なものでしたが、色味やかたさ、形のバランス、もぎり方？などが異なり、自分的に気に入った立派な桃がしばらく流れてくる間、「私が××さんに贈った福島応援隊の桃は、どうかこの農家さんの桃がいきますように…」と念じながら作業しました。

★一昨年とほぼ同じ作業をしたのですが、桃が流れてくるラインが進化（作業場の違いのためか）しており、前回より体はずっと楽でした。とはいえ夕方までやるとそれなりに腰に負担がかかり、よれよれに。地元の方たちは夜も引き続き作業されるとのことで引き上げるのが申し訳なかったです。

★暑い中、桃を作業台に上げる慣れない力仕事に配属された方はとても大変だったかと思います。現場ではかなり高齢の方も力仕事をしておられ、人手不足と同時に高齢の方々のパワーも感じました。地元でアルバイトを募集しても集まらないため東京の大学などに募集をかけているというお話で、アルバイト学生も聞くと東京農大の子たちでした。

★2回目の参加で、初回よりは手際よくできたような気がしますが、前回のことを思い出すのにずいぶん時間がかかってしまいました。次回があれば、今回の作業のコツを（なるべく）忘れないようにまたお伺いしたいです。

お世話になったJAふくしま未来の皆様、ありがとうございました。

桃畑にご案内いただいたこともたいへん勉強になり、美しい夏の果樹園の風景には心なごみました。いただいた桃も大切に味わい、また少し桃愛がレベルアップしました。

ふくしま「桃」JA共選場作業支援ボランティア報告

マーケティング部 神野郁子

作業内容

7月30日（土）、31日（日）；終日：桃「あかつき」の選別、箱詰

作業で注意した点

- ① 桃の顔（縦に伸びる線）が正面になるようにそろえて箱詰します。その線が、箱詰の個数により、縦にそろえたり、斜めに角度をそろえる。
- ② 箱の上部から色の濃い桃、下部に行くほど薄い桃になるようグラデーションを意識し、真ん中に形の良いものを詰めていく。
- ③ フルーツキャップをつけて包装：フルーツキャップの高さがそろうように箱詰。かなり難しいです。
- ④ 選別：傷や、打ち身、皮めくれがあるものは、痛みが早くなるので除く。

学んだこと、感じたこと

桃は、朝 4 時頃から収穫され、12時まで共選場へ各自農家さんが、自家用トラックで納品に来られる。箱はプラスチックの通い箱で側面にNOが記載していて、その番号で農家さんが判明する仕組みでした。30日は4500ケースの納品があり、ピークで4700ケースで、桃の箱詰に20時まで作業が続くそうです。

その後、順次、一次選果を行いながら糖度センサーのベルトコンベアーに流されます。そこで、サイズ、糖度でランク付けされた桃が、各箱詰作業場まで流れていきます。この作業が一番熟練技術だそうです。流れてきた桃を、私たちが箱詰しました。

箱詰作業も、桃がキレイに見えるように気を配られていることが良くわかりました。同じ桃なのに、詰め手の技術で違うものにも感じました。

暑い作業場で、作業されている方の年齢は、50代後半から60代の方が多いように思いました。人不足だと言われていました。桃を納品される農家さんには、80代の方もおられるそうです。今年は、東京農業大学にバイトを応募したところ100名枠に200名の応募があったそうです。しかし、地元からの応援がないと言われていました。恥ずかしながら、初めてボランティアに参加させていただき、完全にバイトに交じっての作業となり、役に立ったのか疑問が残りましたが、いい経験をさせていただいたと思いました。桃の見方は確実に変わりました。福島は美味しいと宣伝します！！先週末、地元（神戸）でミスピーチの箱を持たれている人を目にし嬉しく思いました。

以上

J Aふくしま桃の選果場支援ボランティア報告 (7/30-31)

福祉事業推進部 渡部恭一

福島の会津の出身なのに、福島のボランティアには参加してませんでした。笑顔とどけ隊のみんなの報告を読むたびに、「こりゃ、俺には無理じゃね？」って尻込みしておりました。

去年総務に配属になって、「福島応援隊」の担当をして毎年日本生協連の購入実績が減っていることに、なんとかせにゃ！と思っていたら、今年は異動。ありゃりゃ。そこに、選果場ボランティアの募集で「こりゃやらにゃ！」と参加しました。

「伊達駅」は生まれて初めて。桃の選果場も初めて。どんなことするやら・・・ドキドキ。

到着して早速したのは農家が収穫し、農協に運んできた桃を、運んできたプラスチックの箱のまま、ラインに流す作業でした。仕事を教えてくださったのは今年75歳の**さん（ごめんなさい、失念しました）。会社勤めを退職して、62歳からここで働いているのだと。大ベテランです。ラインに箱をあげる仕事自体はそれほど忙しくなくて、手持無沙汰の時間にいろいろと話を聞かせてもらいました。

震災のときは、人手が足りなくて、朝の4時までやってたこと。その時には1番最初の農家が収穫した桃を運び込んでいたと。昨日は朝8時半に作業開始して、午後9時に終わった。最盛期になってきたので、遅くなるが、終わるまでやめるわけにはいかない。私が「粒のそろったきれいな桃の箱と言ってはなんですが、ずいぶんと白い桃ばかりの箱もありますね」と聞くと「研究熱心な農家とそうでないところの桃は一目瞭然」とのこと（個人的感想？）。工業製品でないことは理解していたが、目の前にこれだけ、品質の違う桃があると、ちょっとつらいものがありました。農家のみなさんは、朝早く（3時ごろ？）から桃の収穫をして、自分でトラックの荷台に載せて、選果場では、自分で荷台から降ろすのですもの。82歳という方も自分でやってました。

「手伝ったりしなのですか？」と不躰な質問には「こっそりすることもあるけど、みんな自分でやるんだ」とのこと。ずっと桃を作って出荷してきた農家のおじちゃん、おばちゃんの「誇り」でしょうか。デスクワークで定年を迎えた私には、正直うらやましいです。もちろん、並大抵の苦勞ではなく、私などに耐えることはできないのは、承知ですけど。

午後から、職員の方が一人ラインにこられて、手際よく対応されてるので、私はほとんど出番がなくなったので、勝手ながら、桃を箱に詰める仕事に変更してもらいました（というか、強引ぐ、まいうえい。誰の了解もとっていない。ほんとにねえ・・・）。

ただ、ここは、きわめて孤独な作業。ほとんど話なし。そばにいた高校生のアルバイト兄ちゃんになんだかんだと話かけるが、相手にしてもらえないわけもなく。彼のおやじより年のいった誰ともしらぬおっさんと話をしてくれるか、高校生男子が。

桃がラインで流れてきたら、教えてもらった手順に従い、ひたすら箱に詰めます。「おーこの桃、最高じゃん！」とか独り言おやじでございました。

手順を教えてもらったけど、流れてくる桃が、その通りにできるようにならないこともあり（生ものだもの、当然だよな）。逆に、流れてくる桃がとびきり美しく美味しそうなばかり、というときもあり。「この桃が詰まった箱は、大当たりだよな」なんて思いつつ、ひたすら箱詰めをしておりました。

熱いお湯の温泉にも入って、花火大会も見て、みんなの感想のように「JAみらいのみなさんに申し訳ないなあ・・・。ほんとに助けになってんだろか？」って思うボランティアでした。

2日目も昼過ぎまで箱詰めをして、てんてこ舞いでありました。

帰りに桃のお土産いただき、ほんと恐縮至極です。

立ちっぱなしでくたびれましたが、必要であれば、来年も、きつといきます。もちろんお土産はなくて大丈夫です。温泉もよすぎました。気持ちはよく、わかるけど。

桃がもっと好きになりました。

名前を忘れた**さん、たくさん、お話をきかせてもらって、ありがとうございます。

秋のリンゴのボランティアは、ありますか？行きます。きつと。

ふくしま桃選果場ボランティア（7/30-31）参加報告

ブランド戦略本部業務管理部 安藤津矢子

1. 実施日：7月30日（土）～31日（日）
2. 作業場所：JAふくしま未来 伊達共選場
3. 作業内容：

桃の箱詰め作業。主に「特秀」ランクの桃にキャップをつけて18個ずつ箱詰め。キャップの高さ、桃の中心の位置、桃の向きに気をつけて、18玉がグラデーションになるか同じような色で揃えるかどちらかできれいに並べる。

4. 作業感想：

作業を教えてもらい、いざやってみると思った以上にむつかしく、教えてくださる方のOKがなかなかでませんでした。やっと「きれい！」といただいたときはうれしかったです。ベテランさんの詰めたものを見ると高級感が漂っており、箱詰めは重要な作業だと改めて思いました。流れてくる桃に追われながら、時間がたつのも忘れて詰め続けました。桃の毛がちくちくするので綿素材の長袖を着用したところ、汗をいっぱいかいてしまいました。サラファインのような機能性の長袖があればよかったと思います。（作業場自体は天井が高くスポットクーラーがあるためそれほど暑くありませんでした）

5. 全体感想：

共選場の方に笑顔で挨拶してもらったり、「ありがとう」と言ってもらったりとても温かく迎えていただきました。送迎ありホテルありお土産ありで作業以外はボランティアというより休暇で来ているようで、ここまでしていただいていることが申し訳なく感じる程でした。ピーチロードや記念碑なども案内していただきました。共選場のおじさんが「放射能なんてないよ！」と言っていたのが印象的でした。福島にまた来たり、皆に福島のよさを伝えることも今回のボランティアの一環であるように感じました。

美味しい果物を狩りに、温泉に入りに、今回食べ損ねた鉄鍋餃子を食べに、今度は家族と一緒に訪れたいと思います。

今回一緒に参加した皆さんといろいろとお話できたのも良かったです。ありがとうございました。

6. その他：

今回1歳の息子を初めて夫に預けたのですが愚図ることなく元気に過ごしたようです。私たち家族にとってもいい経験でした。

笑顔とどけ隊 福島桃の出荷作業（8/6～8/7）

報告者：ロジスティクス本部 ECR センター受注 G 22041 荒木秀一郎

笑顔を届けに行ったのにたくさんの笑顔と美味しい桃を貰ってしまった。

機械で仕分けされた桃を箱詰めする作業を行った。

ラインごと 7 名ほどの作業員で流れてくる桃の箱詰め作業を行う。

ポジションは決まっているようで決まっていなく、相手（桃の品種：まどか、あかつき）や状況に合わせて臨機応変にポジションチェンジを行う。作業は一見単純だが、奥が深くいかに他の作業員の状況を把握して、ラインとしての成果を効率良く上げるかを常に考えないといけない。

桃を作業する高さは現代日本の平均身長からするとかなり低めに作られていて 170cm 以上ある場合はかなり腰に負荷がかかってしまう。姿勢よくリラックスして作業を行うと変な力が入らず腰への負担も少しは軽減できる。

桃がたくさん迫ってくるとプレッシャーもかかり平常心を保つことは難しいが、メンタルコントロールで上手に自分の思考癖に合わせた対策をとることは大切だ。

東京（都会）の人は柔らかい桃を好むけど、地元（田舎）の人は硬いパリッとした桃を好むという非常に興味深いお話を聞いた。このあるあるは必ず今後の人生で役に立つと思った。出身地当ての際、「硬い桃、柔らかい桃どっちが好き！？」なんて気の利いた質問にも応用できる。

群馬出身の知り合いは両方好きという利にかなった回答をしてくれた。

どんなことにも全力でチャレンジする（計画的偶発性論的に）。

今回の企画に参加できたことを心から感謝している。

企画、調整をしてくださった方々、ボランティアを現場で受け入れてくれた方々に改めて御礼を言いたい。本当にありがとうございました。

一緒の日程で参加した物流企画の金子さんの笑顔はスペシャルだった。

自分もいつかスペシャルなスマイルで周りのみんなをスマイルにしたい。

笑顔とどけ隊の隊員であることの誇りを胸に。

☆.。.:*・。.:♪*:・'(*^—^*))), スペシャルスマイル☆

笑顔とどけ隊 福島桃選果場にて（8/6～8/7）

報告者：ロジスティクス本部 需給管理部 佐野 公彦

2年ぶりの福島でした。前は選果場併設の直売所での伝票受付作業がメインでしたが、今年はどっぴりと箱詰め作業に取り組みました。

選果場の全体の流れは・・・

① 農家の方が採れたての桃をパレット単位で車から降ろしていきます。

13時までに納品された桃はその日中に出荷する必要があるとのこと。残りは冷蔵庫へ。ですので、あとで説明する③の作業中にたまーに冷たい桃が流れてきます。



② 糖度センサー・選果人によって桃が「特秀」「秀」「赤秀」でランク分けされ、また、サイズ（13玉～）の仕分けがされます。

③ 今回はこの作業をしました。

仕分結果別に、桃がレーンから流れてくるので、正しい箱を用意してひたすら桃をとって箱詰めしていきます。特秀にはエアーキャップもつけます



この作業を繰り返していきます。

作業中は、地元雇用の皆さんとお話ししながら、休憩中はボランティア同士で「キャップのかぶせ方が難しいねえ..」といった作業内容の向上を目指して意識の高い話し合いが盛んにおこなわれていました。福島自体は相変らずの暑さ（最高気温37℃）でしたが、作業場はスポットクーラーもあり、作業中は快適でした。

最後にボランティア4名で「CO-OP」マーク！福島の地にしっかりとCO-OPの足跡を残してきました。



今回はボランティア3名が同じ本部内、もう一人の共済の方も気さくな方で意気投合し、食事中も話題が絶えず、ボランティア同士の交流がとても盛んでリーダー的にはとても微笑ましかったです。もちろんボランティアの作業への取り組み、現地の方への挨拶・交流もしっかりとしてきました。

2日目はホテルの向かいの日帰り温泉が6時からオープンしていたため、そちらに足を運んで朝風呂を楽しんだり、高校生の合宿姿を見て自身の高校時代を懐かしんだり、ボランティアに精を出しながらも、飯坂の街も十分に楽しめ、飯坂街の魅力を十分に感じ取れました。個人的に第3の故郷と感じている福島。またの機会があれば、継続してボランティアに取り組んでいきたいです。



☆。.:*。.:♪*:・'(*^—^*) スペシャルスマイル☆

笑顔とどけ隊 ふくしま桃選果場支援ボランティア報告(8/6~8/7)

報告者：ロジスティクス本部 物流管理部管理 G 金子則子

今回 2 回目の参加となりました。

8/6(土)当日、東福島駅 9:02 に着くと電車から降りたのは私達 4 人だけでした。改札口に迎えに来てくれていた、JAふくしま未来 湯野共選場の安齋副センター長と挨拶を交わし、いざ現場へ・・・頑張るゾ～。

10 時より各ラインへ入り作業を開始しました。私は 3 ラインに入りました。

今の時期はピークを少し過ぎてあかつきが終盤、まどかが主流となっていました。

初日は秀 22 玉、20 玉を入れました。ラインの班長は阿部さんでとても笑顔が素敵でやさしい方でした。「どこかの青果担当者で研修に来たの？」と最初は言われて、ちょっと戸惑いましたが、「COOPのボランティアで東京の渋谷から来ました。」といろいろな人に言って納得してもらいました。班で忙しいラインには暇なラインの人が箱にラベルと中敷きを入れて補給したり、特秀 13 玉、15 玉、18 玉の所が大量になるとキャップかぶせを横から手伝ったりとすばやく連携して対応しました。

午後から班長さんが「キャップ付をやる？これも勉強だから」特秀 15 玉の前へ行ってキャップの付け方のポイントを丁寧に教えてくれて、午後から特秀 15 玉と 13 玉の所で作業をしました。班長さんからとてもきれいに出来ているよ。と言われうれしかったです。

2 日目も同じラインで、皆さんにやさしくして頂きました。

安齋副センター長の話だと先週までは 30℃前後でしたが、8/6-7 は 37℃～38℃と気温が高く、みんなで口から出る言葉は「暑いね」でした。上からおりている白いホースから冷たい風が出ているので、桃が来ない時は首の後ろに充てていると幸せな時間でした。

4 人全員で COOP の人にボランティアに来てもらって良かったと思ってもらいたいね。。。と話し合って、頑張って来ました。

暑かったし、腰・足・肩も痛かったけど、参加して良かったです。

最後に、JAふくしま未来の方々に受け入れて頂いたお礼と宿泊と送り迎え、お昼のお弁当とサポート有難うございました。また、企画・調整をして頂いた方々、有難うございました。

また、一緒に行った佐野リーダー、荒木さん、青木さんの笑顔もスペシャルでした。

☆.。.:*・。.:♪*:・'(*—*) スペシャルスマイル☆

活動参加報告書

		部長	GM	報告者
				青木

報告日	2016年8月15日	部署	関西地区推進部	氏名	青木 覚
活動日	2016年8月6日～7日			内容	桃共撰場ボランティア
目的	被災地復興支援				
参加者	JAふくしま未来、日本生協連、コープ共済連				

①参加のきっかけ

2年前に同様の共撰場ボランティアに参加をさせていただき、農産物が消費者へ届くまでの想いやこだわりを様々教えていただきました。また、JAや日本生協連の方々と交流を持てることが楽しく今回も参加をさせていただきました。

②活動内容

主に担当させていただいたのは、品種・等級ごとに仕訳された桃を箱詰めする作業です。桃の品種である「あかつき」と「まどか」がレーンに休みなく流れてくる中、滞留させることなく丁寧に箱詰めすることは職人技が必要です。ベテラン職員の方に教えていただきながら、少しずつ腕を磨いていきました。

1つのレーンには約10名のスタッフが配置されており、品種・等級ごとの仕訳は20区分ほどに及びます。特にサイズの大きな桃や高級品は、1つ1つの桃にエアキャップを被せる必要があり、素早く作業をする必要があります。また、それ以外の規格であっても桃の向きを綺麗に揃える必要があり、「ただ箱詰めするだけ」の作業ではありません。

ある1つの規格に集中して出荷されると、どうしても箱詰めのラインで桃の滞留が発生します。その際は、ひとまず別の箱へ桃を保管して、落ち着いたら通常通りの箱詰めを行います。しかし、ベテラン職員の方こうおっしゃいます。「桃は人が触れた分だけ痛んでいく。この共撰場へ出荷される前段階の生産から集荷において、既に何回も人が触れている。だから、私たちは出来るだけ桃に触れる数を少なくしなければならぬ。別の箱へ保管することは、人が桃に触れる回数が1回増えることになる。福島の美味しい桃をベストな状態で皆さんへお届けしなければならない。」お仕事と福島の桃へのこだわりを感じた瞬間でした。



2年前のボランティアでは、原発事故による風評被害の声も多く聞かれましたが、JA職員の方とメンバーへ現状をお伺いしたところ、現在はだいぶ治まってきているとのこと。よい品質の桃をドンドン出荷して、福島を盛り上げていきたいとおっしゃっていました。宿泊地であった飯坂温泉についても、2年前より活気があるように感じました。一方、ボランティアの後に立ち寄った浪江町は、フェンスと警備員に囲まれた取り残された町でした。まだまだ連合会組織が福島へサポートできることはあると感じました。私自身も継続して福島県の復興に携わっていきたいと思っています。

最後に、同一日程でお世話になった日本生協連の佐野リーダー・荒木さん・金子さん楽しいお話をありがとうございました。また、JAふくしま未来の安斎副センター長には、送迎や案内など大変お世話になりました。また、コーディネーションをしていただきました日本生協連の内山さんありがとうございました。

☆。.:*。.:♪*:.'(*—*)☆☆ スペシャルスマイル☆